

安全性と持続可能性とを両立させた食のエコシステム構築に関する調査研究

(一社)新技術協会 客員主任研究員 橋口 長和

1. 背景および目的

20世紀後半の緑の革命により、穀物を中心に農業の生産性が2倍から3倍になった。これによって多くの飢餓が救われ増加する地球人口が支えられてきたが、一方経済成長に伴って食に対する要求が大きく変貌するとともに農業生産が社会に大きな影響をもたらすことが顕在化してきた。例えば、非効率的なエネルギーの消費、大量の水の消費、温室効果ガスの大量放出、過剰施肥によってもたらされた残存硝酸系窒素による土壤汚染や湖沼・海域等の富栄養化等が問題となった。このことは、農業はもはや「グリーン産業」とは言えないことを示している。このような状況を克服して、持続的な食糧供給を維持するためには農業生産と環境保全との調和のとれた食のエコシステムの構築が求められている。また、この取組みが、社会的正義と公正さを備えたものかつ長期的な展望に立ったものにするためには、適正なガバナンスの確立が必要とされ、そのための基準や認証制度の整備が重要である。

一方、日本の食は、新鮮さ、多様性、安全性等など優れた特徴を有しており、この特徴を背景に世界において和食ブームが起きる等高く評価されている。しかしこの豊かな食を世界で真に認めてもらうためには、客観的な基準（GAP 認証取得等）による評価が必要であるが、現在必ずしも適切な対応が取られているとはいえない状況である。この状況を克服するためには、安全性と持続可能性とを両立させた食のエコシステムに関連する基準等への認識を高めるとともに、これらの基準等を活用することが求められている。

農業は産業として極めて地域特異的であり、気象、土壌、水等の環境条件、栽培方法など多様な条件が複雑に絡み合うため、地域の特徴に合わせた活動が必要であるが、地域のニーズに草の根的に対応するという点において、中堅・中小企業は、大手企業では持ちえない可能性を持っており、中堅・中小企業がこの領域に参入する余地は大きく、また参画することの意義は大きい。

本調査研究は、食のエコシステムの現状と課題を把握するとともに、関連する国際基準・標準等の動向を把握するとともに、機能性、安全性および倫理性等を含む総合的な食の品質との関係性を把握することによって、安全性と持続可能性とを両立させた食のエコシステムの望ましい姿を考察する。これに基づいて、安全かつ環境と調和のとれたわが国の食の総合的な品質を高め、国際的な競争力をさらに高めるための方策を検討する。さらに、この結果に基づいて、食のエコシステムの中における中堅中小企業の取り組むべき役割を抽出し提案することを目的とする。

2. 方法

公開情報、文献調査、および有識者からの聞き取り調査等に基づいて、食のエコシステムと環境との係りに関し、以下の項目について現状および課題の把握を行った。

① フードシステムの現状と課題

② フードシステムの安全性（基準・認証制度等を含む）に関する現状と課題

③ フードシステムの持続性に関する現状と課題

これに基づいて、安全性と持続可能性とを両立させた食のエコシステムの望ましい姿を考察するとともに、安全かつ環境と調和のとれたわが国の食の総合的な品質を高め、国際的な競争力をさらに高めるための方策を検討した。さらに、食のエコシステムの中における中堅中小企業の取り組むべき役割を検討した。

結果の概要を以下に述べる。

3. 結果の概要

(1) フードシステムの現状と課題

- 「食」は、人々の命に直結する最も基本的なものであり、食料自給は国の安全保障の要である。従って、国民に安全な食料を安定的に確保することは、国の最も根源的な責務である。しかし、わが国では、この認識が諸外国に比して薄いように感じられる。
- 現在、「食」と「農」との間には大きな乖離が存在しており、さらに拡大している。これを埋めるためには、総合的・多面的にフードシステムを見ることあるいはフードシステム全体を語る場を作ることが重要である。また、「食」に関して、総合的に対応出来る人材の育成が期待されている。その取り組み例の一つが、立命館大学食マネジメント学部の創設である。
- フードシステムに対しては、亀岡三重大学教授からご指摘のあったように、フードシステムを、多軸で見る視点が重要である。

(2) フードシステムの安全性に関する現状と課題

- 安全性に関しては、国際的にも国内的にも管理システムがしっかりと構築されている。生産者から消費者に至るフードシステムの各産業部門における安全に対する認識も高く、対応も進んでいる。
- 従来から、日本の農林水産物や食品に対する安全性の評価は高いものがあつたが、これからグローバルなビジネス展開を進めるにあたっては、単なる信頼関係に依存するのではなく、第三者による認証を取得することによる客観的な裏付けを持った展開が必要になる。

(3) フードシステムの持続性に関する現状と課題

- 生産者も消費者も、食品に対する安全性に関しての関心は高いが、環境問題に関しては、無関心といってもいい状況である。GAP 認証取得にも消極的である。
- わが国の農業がこれから世界に進出するためには、GAP 認証取得が必須条件であることをしっかり理解する必要がある。一方で、GAP(適正農業規範)の世界基準である GlobalG.A.P.の考え方は、持続可能性を意識しながら環境保全型農業を普通にやっていることの証であるにも拘らず、わが国ではあたかも「品質」の証であるとの誤解がまだ

見られる。

- 食品廃棄の問題が極めて重要であり、その削減のための費用対効果の高い解決策を見出すことが持続性維持にとって最も重要な課題である。現在、様々な取り組みがなされているが、引き続き努力が求められる。

(4)国際的な競争力をさらに高めるための方策

- 世界各国とも、食糧を戦略物資として扱っており、その自給率を維持し高めるために、自国の農業に手厚い財政支援を与えている。
一方、諸外国に比してわが国の農業に対する保護の割合は低いにも拘わらず日本の農業は「過保護」であるとの批判が強いのは、保護のあり方の問題であると思われる。アメリカ・EUとも価格支持政策から財政による直接支払いへ保護を転換しているのに対して、わが国は相変わらず関税依存型の保護を行っている。この早急な是正が必要であろう。
- フードシステムの工程ごとに所管官庁の違いによる総合的な対応が難しくなっている。
省庁の再編成は困難であるとしとしても、お互いの協調による総合的な施策が実現されるための協力の場の設定が望まれる。さらに、食に関するグローバルな競争が激化することが想定されるときに、行政による規制の壁や既得権によって食と農が、がんじがらめになっている現状の打破が喫緊の課題である。真に国民のための政治であり行政であることが望まれる。
- 農産物に関する品種登録等の知財の活用あるいは地理的表示制度等を活用した積極的な海外展開を促進することが重要である。
- 農産物に関する品種登録等の知財管理の重要性を認識しその防衛体制を構築することが重要である。
- 食産業のグローバル展開を促進するにあたって、東西文化のゲートウェイの役割を果たすとともにその拠点形成に努める必要がある。

(5)中堅中小企業の取り組むべき役割

- 中堅中小企業が、フードシステムの中で取り組むべき役割は、地域に根ざした食文化（食材の地域性・多様性・その活かし方等）を維持し発展させるという視点で、地域密着型のビジネス展開である。さらに、保有技術を活かした食品廃棄物の削減への取り組みが考えられる。

(6)その他

- 首都直下型の地震の発生が論議されている。その状況で、災害対策のためのアドホックネットワークの構築を図り、地域社会の結束力を強めレジリエンスを高めておくことが望まれる。